

悪の発生と病

前項の如く悪の九分九厘に対して、善の一厘が現はれ、絶対神力を揮って既成文化を是正すると共に、新文化を打ち樹てる。早くいえば掌を反えすのである。之が今後に於ける神の経綸の骨子であつて、其破天荒的企図は想像に絶するといつてよからう。之に就いては彼の旧約聖書創生記中にある禁断の木の実の寓話である。勿論之は比喻であつて、エデンの園にいたアダムといブの物語は、実に深遠なる神の謎が秘められている。それを追々説いてゆくが、之を読むに就いては全然白紙にならなければ、

到底分りようがないのである。言う迄もなく木の実を食う事によって悪の発生である。というのは木の実とは薬の事であつて、薬によって病氣が作られ、病氣によって悪が発生する。処が人類は紀元以前から、病氣を治す目的として使い始めたのが彼の薬剤であつて、禁断の木の実とは、何ぞ知らん此薬剤を曰つたものである。という訳を知つたなら何人も愕然として驚かない者はあるまい。ではそのような到底想像もつかない程の理由は何かという、之を説くとしたら理論と實際から徹底的に説かねばならないから、充分活眼を開いて見られん事である。

茲で曩に説いた如く、人間は靈と体とから成立っており、靈が主で体が従であるという原則も已に判ったであらうが、そのように惡の發生原は靈に發生した曇りであり、此曇りに元から憑依していた動物靈と、後から憑依した動物靈と相俟って、人間は動物的行為をさせられる。それが惡の行為である。早く言えば靈の曇り即惡である以上、惡を撲滅するには靈の曇りの解消である事は言う迄もない。処が曇りの因こそ藥劑であるから茲に大きな問題がある。勿論靈の曇りは濁血の移写で、濁血は藥劑が造るのである

から、人間薬剤さへ用いなくなれば悪は発生しないのである。

斯う判つてくると禁断の木の實、即ち薬剤こそ悪発生の本根である事が分るであらう。

茲で今一つの重要な事がかかねばならないが、之も曩に説いた如く文化の進歩促進の為の悪を作った薬は、他にも大きな役目をして来た事である。というのは血液の濁りを排除すべき自然浄化作用である。勿論曇りが溜ると健康に影響し、人間本来の活動に支障を及ぼすからである。処が人智未発達の為、右の浄化作用による苦痛をマイナスに解

して、了い病氣の苦痛を免れようとし、藥を用いはじめたのである。というのは淨化作用停止には身体を弱らせる事であつて、

弱れば淨化作用も弱るから、それだけ苦痛は緩和される。それを病氣が治る作用と錯覺したのである。という訳で抑々此誤りこそ、今日の如き苦惱に満ちた地獄世界を作った根本原因である。

右によつてみても、藥というものは其毒によつて單に病苦を輕減するだけのもので、治す力は聊かもない処か、其毒が病氣の原因となるのであるから、其無智なる言うべき

言葉はないのである。処が驚くべし此病氣に対する盲目は、実は深い神の意図があつたのである。それを之から詳しくかいてみるが、先ず文化を發展させる上には二つの方法があつた。

其一は曩に説いた如く悪を作つて善と闘はす事と、今一つは人間の健康を弱らす事である。前者は已に説いたから省くとして、後者に就いて説明してみれば、先ず原始時代からの人間の歴史をみれば分る如く、最初はありのままの自然生活であつて、衣食住に対しても殆んど獸と同様で、健康も体力もそうであつたから常に山野を馳驅し、猛獸毒

蛇やあらゆる動物と闘ったのは勿論で、之がその時代に於ける人間生活の全部といつてもいいのである。そのように獸的暴力的であつた行動は漸次其必要がなくなるに従い、今度は人間と人間との闘争が始まつたと共に、

漸次激しくなつたのであるが、それらによつて人智は大いに発達すると共に、長い年代を経て遂に文化を作り出すまでになつたのである。このような訳で若し最初から闘争がなく平穩無事な生活としたら、人類は原始時代のままか幾分進歩した程度で、智識の発達は少なく、相変らず未開

人的生活に甘んじていたであらう事は想像されるのである。

処が前記の如く禁断の木の實を食った事によって病が作られ悪が作られたのである。処が今日迄全然それに気が付かない為、今日の如く根強い薬剤迷信に陥ったのであるから、最も大きな過誤を続けて来たのである。

而も一面原始人的健康であつた人間は、前記の如く動物を征服し、生活の安全を得るに従い体力も弱つたと共に、智識は進んだので茲に平坦な道を作り、馬や牛に車を牽かせて歩行せずとも移動出来るようになったのである。右は

日本であるが、外国に於いては石炭を焚き、レールの上を走る汽車を考え出し、一層進んで現在の如き自動車、飛行機の如き素晴らしい便利な交通機関を作り出すと共に、他面電気ラヂオ等の機械を作る事になったのである。尚又人間の不幸をより減らすべく社会の組織機構は固より、政治、経済、教育、道德、芸術等、

凡ゆる文化面に亘って学問を進歩させ巧妙な機関施設等を作り、それが進歩発達して、現在の如き文明社会を作ったのであるから、歸する処来るべき地上天国樹立の為の準備に外ならなかったのである。

以上の如く医学の根本は、人間の悪を作り健康を弱らす目的にあるので、予期の如く現在の如き世界が出来たのである。処が之以上進むとしたら、逆に人類破滅の危険に迄晒されるので、最早之以上の進歩は不可とし、茲に神は文明の大転換を行わんが為、私に対し真理を開示されたのであるから、

之によって悪を或程度制約し、善主悪従の文明世界樹立の時となったのである。